

令和5年度 第1回学校適正配置検討委員会 会議記録（要旨）

日時 令和5年8月7日（月） 午後6時00分～午後7時30分

場所 仙北市西木庁舎2階201会議室

出席 出席委員13名（欠席委員5名）

1 開会

2 教育長あいさつ

3 委員長あいさつ

4 議題

（1）角館小学校・白岩小学校の統合準備状況について（報告）

～事務局説明～

7月3日、両校関係者で組織する第1回統合準備委員会を開催し、正副委員長の選任及び統合までに協議する事項と進め方について確認したことを報告。

（特に質問等なし）

（2）学校適正配置に関する市民意見交換会の結果について（報告）

～事務局説明～

委員	意見交換では、いずれ統合が必要になることは共通認識されているように感じる。
委員	旧3町村ごとに統合する意見があったようだが、児童生徒数の減少傾向からすると、実施してもすぐにまた統合が必要な状況になると思う。
委員	統合はやむを得ないという意識になっていると思う。統合は旧3町村の枠にこだわらずに通学時間を考慮して考えていくべきと思う。
委員長	児童生徒数だけを考えれば、小・中ともに1校でもよいくらいだが、地理的な特性があり、人数だけでは論じられないところが難しさである。
委員	統合に向かわなければとの認識はあるが、地域名称が無くなる寂しさを感じる人もいる。
委員	旧3町村単位の統合でなくても、地理的に比較的近い学校どうしの統合でも良いと思う。また、リモート学習など多様な考え方も必要だと思う。

（3）学校適正配置（骨子素案）について

～事務局説明～

委員長 | 望ましい一定の集団規模について、1学年あたり概ね20人ならば1

学年1学級となる。市民から複数学級を望む意見もある中でこうする理由は何か。

事務局 今後、様々な統合パターンを検討するにあたって、選択肢を狭め過ぎないように最低限確保したい人数を示したもので、それ以上の人数や複数学級を制限するものではない。「1学級20人程度を確保」に修正する。

委員 現時点で1学年20人以上いる学校は、統合の対象外となり統合が進まないのではないか。

事務局 近年の出生数をもとに児童生徒数の予測が出ている。将来の減少を見通して考える必要がある。

委員 人口減少の現実に仙北市はまちづくりのビジョンをどう描いていくのか。それによって考え方も変わってくるのではないか。

事務局 将来に仙北市が存続し続けられるか心配である。適正配置はまちづくりと一体的に考えていく必要があると認識している。

委員 市民意見交換会では、1学級35人は多すぎるという意見もあった。これを複数学級に分けることはできないか。少人数で複数クラスが理想という声があった。

事務局 学年ごとに学級の定数が決まっている。相当の理由があつて教員の加配が認められれば学級数が増えることになる。
望ましい学校規模に、人数を明記することの是非も含めて教育委員会で再検討させていただきたい。

委員 従来の学校イメージに縛られず、遠方の通学児童生徒のことを考えて始業時刻をずらすとか、1教室に入る人数とか、オンライン授業とか考えて行くこともこれからは必要かもしれない。

委員 アンケートや意見交換でいろいろな意見が出された。今後、市がどんな学校を目指していくのか、保護者や住民に示した上で意見を伺っていくことが大事だと思う。

委員 本音を話し合つて、一丸となつて考えていかなければならない。それを市民にも伝えて行くべきである。この機会に、既成概念にとらわれずに考えていきたい。

5 閉会